

## シグナスオート LIP の基礎的検討およびアジ化ナトリウムの影響

©小杉山 晴香<sup>1)</sup>、村越 大輝<sup>1)</sup>、白川 るみ<sup>1)</sup>、西川 伸一<sup>1)</sup>、菌田 明広<sup>1)</sup>、島田 俊夫<sup>2)</sup>

地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 検査部<sup>1)</sup>、地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 臨床研究部<sup>2)</sup>

【はじめに】リパーゼは膵臓の腺房細胞で産生され、中性脂肪に作用し、グリセリンと脂肪酸に分解する分子量約 50,000 の糖蛋白である。膵疾患における臨床的意義は高く急性膵炎の診断に有用である。リパーゼ活性の測定原理は主に DGGMR 法とカラーレート法に分けられるが、DGGMR 法はアジ化ナトリウム添加試薬によるコンタミでの試薬劣化が報告されている。今回、DGGMR 法を原理とするシグナスオート LIP(シノテスト)の院内導入に伴い、基礎検討とアジ化ナトリウムによる影響を検証したので報告する。

【方法】測定機器は LABOSPECT008(日立ハイテクノロジーズ)、試薬はシグナスオート LIP(シノテスト)、試料はシグナスオート LIP 専用コントロール(シノテスト)とプレチパス U(ロシュダイアグノスティックス株式会社)を用いた。基礎検討として同時再現性(n=20)、日差再現性(n=17)、直線性(n=11)、従来試薬との相関(n=50)を行った。アジ化ナトリウムによる影響は、アジ化ナトリウム添加試薬と同一試薬ボードに試薬を設置し、17 日間の測定値の日差変動を確認

した。

【結果】同時再現性は専用コントロールで CV1.7%(44.4±0.75U/L:mean±SD)、プレチパスで CV1.1%(92.7±1.04U/L)であった。日差再現性は専用コントロールで CV2.6%(43.0±1.11U/L)、プレチパスで 2.4%(93.1±2.21U/L)であった。直線性は、469U/L まで得られた。現行試薬との相関は  $r=0.99$ 、回帰式  $y=1.21x-15.8$  であった。アジ化ナトリウムによる影響は、17 日間連続下降シフトが確認され、日差再現性は専用コントロールで CV12.7%(35.5±4.51U/L)、プレチパスで CV10.9%(78.2±8.53U/L)であった。

【まとめ】本試薬の日立 LABOSPECT008 での基礎検討において良好な結果が得られ、従来試薬とも高い相関を認めた。しかし、アジ化ナトリウムによる影響で経時的に測定値が低下するため、同一試薬ボードへの設置は避けアジ化ナトリウムによる影響を受けにくい条件下での測定が望ましい。

連絡先 054-247-6111 (内線 2254)